

★配合剤について★

Q1.「配合剤」とはどのようなものですか？

A1、配合剤とは、何種類かのお薬の成分をひとつの薬の中に含ませた医薬品で、飲み薬、目薬、吸入薬などがあります。
組み合わせられている成分は、似た効果をもったもの同士や、異なる効果をもったものなど様々です。

Q2. 当院にはどのようなものがありますか？

A2、ここで当院にある配合剤について紹介します

①アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB薬)+チアジド系降圧利尿薬

高血圧症に用いる、血圧を下げる飲み薬です。ARBは血圧を上げる「アンジオテンシンⅡ」という体内物質を抑える作用があります。そのために体の血管が広がり、血圧が下がります。
チアジド系降圧利尿薬は、古くからあるお薬で、体の余分な水分を塩分とともに尿に排出して血圧を下げます。2つの成分が一緒に作用することで、十分血圧が下がるようになります。
また、心臓や腎臓の負担が軽くなる効果も期待できます。

配合剤の名前	ARB薬	降圧利尿剤
プレミネント配合錠	ロスアルタンカリウム(商品名ニューロタン)50mg	ヒドロクロロチアジド12.5mg

②アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB薬)+カルシウム拮抗薬

高血圧症に用いる、血圧を下げる飲み薬です。
ARB薬は①でも紹介しましたね。カルシウム拮抗薬は、心臓や体の血管を広げて、血圧を下げます。
高血圧治療では、作用機序の異なる薬剤を組み合わせた併用療法が推奨されていますが、中でもARB薬とカルシウム拮抗薬の併用は使用される頻度も高くなってきています。
2剤を配合することによって、強力かつ持続的な降圧効果を有する薬剤となることが期待されます。

配合剤の名前	ARB薬	カルシウム拮抗薬
レザルタス配合錠HD	オルメサルタン(商品名オルメテック)20mg	アゼルニジピン16mg
ミカムロ配合錠AP	テルミサルタン(商品名ミカルディス)40mg	アムロジピン5mg

③ステロイド薬+β2刺激薬

気道を広げ、炎症をとる吸入薬です。喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)の治療に用います。
強い抗炎症作用を持つステロイド薬と、気管支拡張作用を持つβ2刺激薬の2剤が一緒に作用することで、単剤よりも優れた呼吸機能の改善効果をもたらします。対象となる患者さんは、吸入ステロイド薬だけでは効果不十分な、やや重い喘息に対してです(軽症持続型以上)。

配合剤の名前	ステロイド薬	β2刺激薬
アドエア250ディスカス	フルチカゾンプロピオン酸エステル (商品名フルタイド)	サルメテロール (商品名セレベント)

Q3 配合剤のメリット・デメリットとしては、何が考えられますか。

A3、次の点が考えられています。

メリット・デメリットを理解し、決められた用法・用量を確認して使うことが大切です。

【配合剤のメリット】

- ①飲む薬や目薬、吸入薬の数を減らすことができる。
- ②飲み忘れや点眼、吸入忘れを防ぐことができる。
- ③単剤よりも効果を高めることができる。
- ④薬剤の値段を抑えることができる。

【配合剤のデメリット】

- ①副作用が発生した場合に、原因となる成分がわかりづらい。
- ②あらかじめ一定の割合で成分が含まれているため、細かい量の調節が難しい。
- ③配合剤と気づかずに同じような効果の薬を重複して服用してしまう可能性がある。

